

つくし展」が開催されました。

福島からの返却時はもちろん、熊本への貸出時にも、一度作品を開梱、状態を確認するという点検作業を行います。コンディションチェックシートと呼ばれる作品1点ごとに画像を貼り込んで作成された用紙に、作品の状態や付属品（箱や極



▲熊本県立美術館「美をつくし展」チラシ

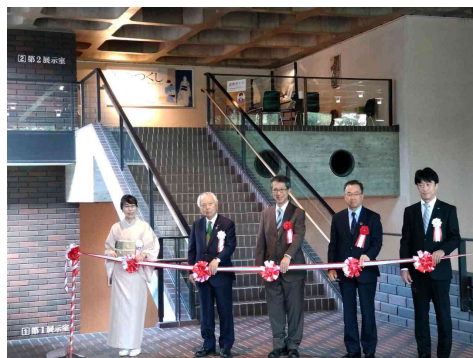
書の紙など）などを書き込み、貸出時と返却時で違いはないかを確認します。またこれは、絵具が剥落しかけていたり、素材が脆弱で危険なものを展示時に取り扱うに際し注意を促す上でも重要なものです。

熊本県立美術館の学芸員さんの同乗のもと、エアサスペンションという振動を極力抑える仕様の美術品専用車に積み込まれた作品は、朝早く関西を出発し、夕方北九州へと到着、北九州市立いのちのたび博物館さんのご協力のもと一晩ご保管いただき、翌日無事、熊本県立美術館の収蔵庫へと運び込まれました。

熊本県立美術館は昭和51年（1976）に建てられた熊本城二の丸公園の敷地内にある美術館で、モダニズム建築を代表する前川國男が最晩年に設計を手がけました。前川建築の最高傑作とも言われ、打ち放しのコンクリートによる格子状の天井やタイルの床が美しく、穏やかで落ち着いた空間が広がります。バリアフリーやユニバーサルデザインという概念がなかった時代の建物ですので、階段が随所にあり、照明も控えめなのですが、公園の緑を映し出す吹き抜けの大きな窓を明り取りとする自然との調和を感じさせる居心地の良さは代えがたいものがあります。

「美をつくし展」出品作は、当館のバラエティに富んだ収蔵品を反映して、素材や大きさもさまざま（4 cmほどの小さな象牙の根付から、縦横2

mを超える日本画まで）ですので、同館が所蔵する展示ケースをフル稼働して展示いただきました。また、独自で作成され来館者に配られた根付のミニ図鑑は、当館の収蔵品をより身近に感じていただく大きな助けとなったことと思います。様々な



▲熊本県立美術館「美をつくし展」開会式の様子

工夫の上で当館所蔵品をご紹介いただきました各館のみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。

#### ◇「美をつくし展」熊本会場 関連イベント◇

熊本会場では、11月3日（金・祝日）に、小・中学生（家族で参加）を対象としたワークショップ「子ども美術館」が開催されました。



今回のテーマは、「美をつくし展」に出品中の葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川冲浪裏」にちなんで、「今日から君もアーティスト★ 多色版画で浮世絵はがきを作ろう!」。大勢のボランティアさんのお手伝いで、カラフルな版画はがきが仕上がりました。親子でそれぞれの出来栄を評価しあう様子も印象的でした。

